

CODATA-ICSTIデータサイテーションタスクグループ

Data Citation Standards and Practices Task Group (TG)

● TG会合

- ネット上でのオンライン会議: 1-2か月に1回。
- 会合: 2012年10月27-28日
(於 台湾中央科学院)

● アウトプット: TGサマリー・レポート

- 2013年4月公表予定(本文~100頁)。
- TG内査読後、外部査読予定
(外部査読者候補提案?)
- 原稿案目次概要

1. データサイテーションの重要性
2. データサイテーションの現状
3. 新たな公式標準提案と成功事例の提示
4. データサイテーションの新たな原則
5. ツール、インフラストラクチャ
6. 分野、組織による文化や状況の違い・課題
7. 将来の研究課題(科学研究活動、ツール・技術、組織・法律)

NICT内連携プロジェクト(是津 情報利活用基盤研究室長・村山 統合データシステム研究開発室長ほか)の技術内容が含められる予定。

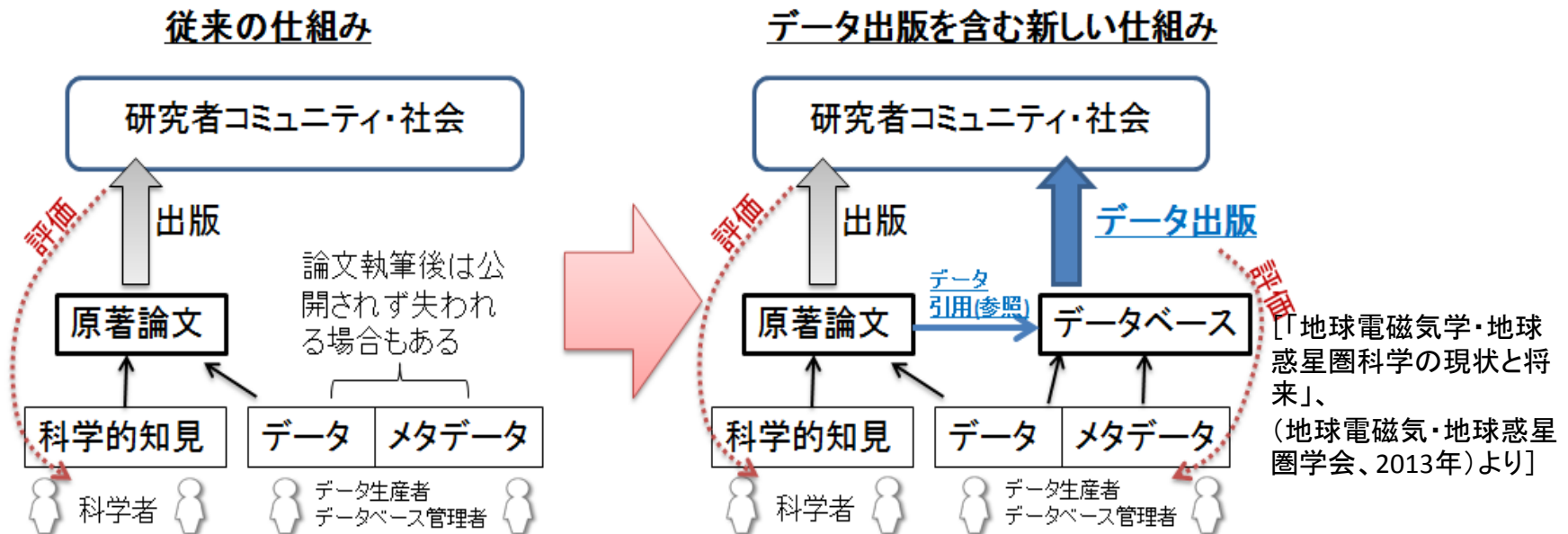
注:

- CODATA: ICSUの科学技術データ委員会(Committee on Data for Science and Technology)。1966年設立以来、基礎物理定数のデファクト標準値の決定のほか、化学・物理・生命科学・地球科学・データ利用などのTGが活動。
- ICSTI: 国際科学技術情報会議(International Council for Scientific and Technical Information。日本ではJSTが加盟。他に各国科学文献情報組織やOECD、マイクロソフト・リサーチ・コネクションなどもふくめて44組織が加盟。)



データ・サイテーションとは何か

- データパブリケーション
 - データを「出版」する仕組み:
 - 課題: データの「査読」「固定」「公表」など制度、手法に多くの課題あり。
- データサイテーション
 - データを文献のように「引用」「参照」する仕組み
 - 課題: ID標準化、引用ルール確立、評価手法など国際団体・出版社等で模索中。
- データを引用・参照すると
 - 論文・書籍は知的生産力の基準⇒研究職・教育職の採択評価にも。
 - 信頼できるデータ生成・提供は現代では十分に科学者の仕事。←評価



(参考)

Building a Culture of Data Citation



<http://www.ands.org.au/cite-data/index.html>